

## 選ばれる商品作りを心掛ける

みょうが部会

J Aあきた白神の特産品である「白神みょうが」の収穫・出荷を目前に控え、みょうが部会（工藤寿部会長）は、7月26日に能代市工業団地で目揃会を開催しました

生産者やJ A、市場関係者合わせて約60人が参加し、生育状況や今後の管理、市場情勢などについて説明を行いました。工藤部会長は「今年はいもち病や葉枯病の発生が見られる。また梅雨明けは根茎腐敗病の発生の恐れがあるので防除を徹底してもらいたい。選別作業をしっかり行い高品質の白神みょうがを出荷し、目標の1億160万円、さらにその上を目指したい」と話しました。



▲出荷基準を確認する生産者



▲規格を確認する生産者

## 2年連続10億円突破を目指して

ねぎ部会

ねぎ部会（山谷初男部会長）は7月20日に夏ねぎ目揃会を開催し、生産者・J A・市場関係者など約40人の参加のもと、市場動向や出荷規格の確認等を行いました。

はじめに、山谷部会長が「今年も販売額10億円を目指したい。2年連続で目標を達成した産地はほとんどなく、今年も達成することで産地の仲間入りをしたい」とあいさつ。その後、普及課職員から病害虫についての説明があり「べと病とネギアザミウマの被害が平年並みか平年並み以上、また、アメリカネナシカズラの発生も確認されているので防除対策の徹底をしてもらいたい」と注意を呼び掛けました。

## あぜ道巡回で生育状況を確認

営農企画課

7月19日から管内の各圃場であぜ道巡回指導が行われ、稲作りに最も大事な穂肥期を迎えるに当たり、営農指導員が現在の稲作の状況と今後の管理について生産者と共に話し合いました。

このうち山谷地区では生産者約15人が参加し、営農指導員が今年の生育状況について、草丈は短め、茎数はやや少なめ、葉色は薄い生育状況となっていることに触れ「作柄を確保する上で重要な時期に入っているので、圃場の状況をよく確認し適正な肥培管理を行うとともにきめ細かい水管理や病害虫防除の徹底に努めてほしい」と生産者に呼び掛けました。



▲説明に耳を傾ける生産者



▲生育状況を確認する生産者

## 生育の確認と今後の管理について学ぶ

山うど部会

山うど部会（桜田和浩部会長）は7月8日、生育確認と今後の管理を検討するため、山うど現地研修会を開催した。

生産者やJ A、山本地域振興局普及課職員など約15人が参加した研修会では、生産者の圃場6か所を巡回し、生育状況などを確認・指導しました。巡回した普及課職員からは「植え付け後から周期的な降雨があり生育は順調にきている。湿害を防ぐために、今後は圃場の周囲に暗渠を掘るなどして、排水対策を行ってほしい。また、7月下旬頃から摘芯の作業が始まるが、倒伏の恐れがある場合は直ちに摘芯をしてもらいたい」と注意を呼びかけました。